（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人　孔子会		
事業所名	グループホームまゆの里　絹ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人　総合健康推進財団
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38
訪問調査日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者お一人おひとりの希望や願いを一つでも多く叶えられるよう、まゆの里をわが家として感じ、ありのまま、自分のままに暮らしていただけるよう、できることやわかることを活かし、職員も一緒になって助け合い、喜びあえる暮らしの実現を目指しています。様々なミーティングや職員の委員会活動を通して、職員一人ひとりが知恵や工夫、気づきを出し合い、情報を共有して質の高いケアに繋がるよう努力しています。ご家族とも、密に情報交換や連絡をおこなっており、いつでも気軽にホームに来ていただき、面会やご家族との外出も多くできています。時には、ご家族がボランティアとしてホームの行事を手伝ってくださる事もあります。地域や家族、友達、なじみの場所との繋がりを保ち、日々のあたりまえの暮らしを大切に、尊重されていると実感していただけるようなケアを実現していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「まゆの里」の由来は、昔、この地域は蚕産が盛んであった場所であったことからつけられたそうです。温泉を活かしたお風呂・足湯・地中熱システム・清潔で日当たりのよいリビング等快適な住環境が整備されています。質の高いケアに向けて、ミーティングや委員会活動のみならず、IT機器を利用し事務処理の時間の短縮等ソフト・ハード面の積極的な取り組みがありました。又「共に生き、共に暮らしをつむぐということ」について理念と目標へ近づくために研究発表をされています。①毎朝の唱和、②認知症についての学習会の開催、③ケース記録他SOAP記録の提出④24時間シート作成等課題を共有し、格差のないケアに結ぶために周知徹底して2回のアンケート調査を実施されていました。質の高いケアに取り組む姿勢が研究成果にも現れていました。人生の暮らしを支えるケアの工夫があり、今後のケアに更に活かされるものと期待します。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と目標は職員のネームホルダーに入れ、いつでも確認できるようにしている。朝礼時には理念と目標を1週間ごとに毎日、唱和してから仕事に入っている。日々のケアで悩んだり、行き詰った時には理念と目標に立ち返るようにしている。	共に生き、共に暮らしをつむぐという理念と4つの目標を意識したケアを達成できているか、アンケート調査が実施されていました。2回の比較研究をされた結果から「（利用者様が）自分らしく生きることとは？」ということを考えることで、利用者中心のケアを意識付けされているのが伺えます。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美化作業や夏祭り、敬老会などに参加している。また、併設の小規模多機能ホームと共同で「ふれあい会」を開催し、地域の人や子供会との交流を図っている。	地域の行事やペタンク・ボウリングへの参加や、子供会からの施設訪問等の写真があり、自治会への回覧されるなど地域との連携がなされていました。また、「孔子会」という子供会の見学等を通じて、地域に自然と認知症の理解が得られていると伺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で行っている認知症カフェに職員が運営スタッフとして携わり、認知症の人や家族、地域の人の相談窓口になっている。また、カフェを通して認知症の人への地域の人の理解を図っている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事、ホームでの日頃の様子をスライドを用いて報告。職員の研修状況やひやり・はっと、事故報告なども報告し意見や感想を頂いている。また、地域内の行事や情報についても情報交換を行っている。	運営推進会議録には、発言された意見等が明確に記載されていた。運営委員として家族の代表も参加されています。事故報告やヒヤリ・ハット等の報告がされており、情報交換を通じて相互の理解がなされています。	家族の方には運営会議後に会報等でお知らせすることで、家族の意識も向上して、より密接なかかわりができるものと期待します。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当課に毎回、出席していただき、運営状況や内容について報告するとともに、意見やアドバイスを頂いている。	運営推進会議では、市からの意見も聴取され、議事録には発言も記載されており、連携が取れていることが伺えます。	今後は、市民の認知症理解を深めるために、施設を「研修の場」として活用されることを期待します。
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという方針のもと、一切、行っていない。職員は、法人内の研修会で身体拘束をしないケア、認知症の理解について学んでいる。玄関も日中は施錠せず、入居者の思いを尊重し、自由に出入りできるようにしている。	身体拘束に関しては、施錠をしない、スピーチロックをしない等、我が家にいる感覚で過ごしていただこうというケアがなされていました。安全面に関しては職員の意識を高めて見守るケアがされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会で高齢者虐待防止法について学んでいる。ユニット毎に週2～3回、朝からプチミーティングを行い、日頃の対応やケアで悩んでいる事などを話し合い、職員間で情報共有しあうことで職員のストレスの軽減を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の入居者が成年後見制度を利用中である。実際の利用の状況をみながら制度について学んでいる。今後、勉強会を行い、成年後見制度や日常生活自立支援事業について知識と理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書や重要事項説明について説明をし、不明点がないか確認の上で契約を行っている。加算の発生や介護度が変更になり、料金が変わるときは、その都度、ご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議では、入居者、ご家族からも意見を頂いている。また、普段の面会時にも、ホームでの様子などについて報告し、意見や要望を話して頂くようにしている。	ご家族の来訪時に伝言や意見を聴かれているようです。又、意見箱の設置はあるがほとんど入っていないのが現状です。	意見や伝達が漏れているケースがないように、行事後などに茶話会等を企画するなど意見が述べやすい工夫をすることで、ケアの質の向上につながるものと期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回まゆの里ミーティング、ユニットミーティング、日頃のプチミーティングを行っており、管理者が参加することで、職員の意見や提案を聞き、運営に活かしている。	ミーティング等で運営やケアの提案等について、職員が意見を述べやすいような雰囲気づくりをして、管理者も職員の意見をよく聴いて把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加など、やりがいをもち向上心を高められる機会をつくっている。また、子育てや介護中など各自の生活状況にあわせて、勤務希望や勤務変更など柔軟に対応している。有休休暇もできるだけ、取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内で研修会が行われている。法人内研究発表会があり、研究発表を通して新たに学ぶことができている。また、外部研修にも積極的に参加している。資格取得を目指す職員には、講習に合わせた勤務体制としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な、外部研修に参加することで、他施設の同業者との交流が図れている。また、ホームへの研修や見学も随時、受け入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだ上で、しっかりご本人の言葉や訴えを傾聴している。不安が強い時は1対1で時間をかけて傾聴し、安心して頂けるようにしている。また、できるだけ早く、好きな事やできる事を見つけ生活の中に取り入れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族との面談を行い、困っていることや不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにている。また、入居後もいつでも気軽に相談してもらえるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用が適切なのかを考えて対応している。必要に応じて、在宅のケアマネージャー等とも連携を図りながら、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「あなたと共に生き、共に暮らしを紡いでいきます」という理念が実現できるよう、一緒に暮らしを営み、お互いに助け合って生活している。できる事はして頂き、料理や野菜作りなど職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし、変化があればすぐに電話連絡している。ホームへの行事に参加して頂いたり、ボランティアとして参加して頂く事もある。病院受診は、できるだけ家族に付き添ってもらい、本人との関係が途絶えないようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や床屋で散髪してもらったり、老人会の集まりに参加したり、家族や知人の葬儀に参加している。なじみの店やレストランにも家族や職員が付添い出掛けている。	なじみの関係の場所や理・美容院に連れて行かれていることは、家族もよく承知されています。どの方がどういう馴染みをもっているかをよく把握されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、レクレーションや家事を一緒に行い、助け合ったり、思いやりを持った言動がみられている。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら職員がどこに座るか検討している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、近況を尋ねたり、相談にのったり、状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。また、退居先に面会に行ったり、ホームでの様子を退居先の職員に伝え、できるだけ今までの暮らしが継続できるよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活や会話の中から思いや希望を聞き取り、プチミーティング等で検討している。一人ひとりのケアプランをファイル化し定期的に職員が確認し、本人の意向や希望に沿った生活が送れるようにしている。	「家に帰りたい」とよく言われる方には、昔住んでいた近くの神社等に出かけたりと、一人一人の思いについて、プチミーティングで話し合って対応されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や聞き取りから生活歴や今までの暮らしを確認したり、本人や家族からも話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が主になって24時間シートを作成し、一人ひとりにあった1日が過ごせるようにしている。また、一人ひとりの「できる」「わかる」に着目し、できない事も「○○したらできる」というICFの視点で捉えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プチミーティングやミーティングで話し合った意見も活用しながら、本人、家族の意向をふまえた介護計画を作成している。また、担当職員が計画作成担当者と一緒にモニタリングをすることで、サービス内容の見直しを検討している。	介護計画は、個々の利用者の担当職員とサービス計画作成担当者が一緒にモニタリングを行い、利用者の意向をよく聴きとって作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応などを細やかに記録している。特に、全職員で共有した方がよいような出来事は、申し送り記録とし、各職員が記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、本人や家族のニーズには応えられるようにしている。受診の対応や個人的な外出への付き添い、また急な夜間帯の家族との外出にも対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの美容室やスーパーに出かけたり、入居者の仲のいい親戚や友達を把握し、交流が図れるようにしている。また、図書館に定期的に出かけ、好きな本を借りてきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。受診はできるだけ、家族に付き添ってもらい、必要時は職員が同行している。その時の症状に応じ、専門医の受診も行っている。	かかりつけ医がおられる場合は、家族の希望を優先されている。受診記録もあり受診には家族が原則は同行されていました。薬が新しくなった場合などには3日間申し送りがされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化がある時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常があれば、家族に連絡・相談の上、かかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子などを情報提供している。入院中は、職員が面会に行ったり、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり情報交換や今後についての相談を行っている。また、なじみの入居者と一緒にお見舞いにい行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。また、身寄りがない方については、後見人やかかりつけ医等と話し合い、事前指定書を作成した。今後、重度化や終末期になった場合は、本人・家族と話し合い連携していきながら支援していきたい。	入居時に重度化や看取りに関しての指針が説明されていました。身寄りがない人に関しても事前指定書が作成されていました。看取りや急変時には十分な対応できるように職員にも周知されていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会で心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。また、ホーム内の吸引器の場所やセットの方法について、看護職から指導を受けている。急変時はマニュアルに沿って、対応するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署の立ち合いのもと昼・夜間想定の避難訓練を実施している。法人内の備蓄のほか、ホーム内にも備蓄している。地震や洪水の訓練は実施していないので、今後、地域との連携を図りながら実施していきたい。	防災訓練や、火災等の避難訓練をしている。水害も経験をされており、地域から助けていただいたことがあった。避難場所についても十分に周知されていました。	今後は地震訓練や洪水の時の訓練についても具体的な地域連携網の作成が望まれます。目に付くところに「まゆの里」の看板を設置されることが望まれます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室はカギがかけられるようになっている。人として、人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。	言葉かけに関しては「○○さん、どうなさいました？」等、個人の人格を尊重した言葉かけができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の一つひとつ、例えば散歩に行くかどうか、お茶にするかコーヒーにするかなど、私たちが判断するのではなく入居者が自分で決定できるような声掛けをしている。また、したくない事やいやな事も伝えられるような雰囲気や声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、ミーティングなどで、どうすればその人らしく生活できるのか意見を出し合っている。今日、何をして過ごすか、入居者の希望を聞き、できるだけ叶えられるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらっている。女性は、自分の化粧品をもってきて頂き日頃からお化粧をしている。。外出や行事があるときは、外出着を着てもらい、スカーフやアクセサリー、帽子などを身につけて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや味見、あえ物づくり、盛り付けなど、一人ひとりのできる事、得意なことを見極めて一緒に手伝ってもらっている。男性職員が調理担当の時などは、率先して手伝っていただいている。	調理の手伝いが可能な方には、一緒に食事作りや配膳、下膳への参加していただき、家族のような関係で食事時間を楽しくすごされていました。伺った際に利用者は「団子汁を作った」と得意そうでした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病気や体重、状態に応じて、量や食形を変えて提供している。以前から白米が苦手な方には、パンを提供している。水分量が足りない方は、好みの飲み物を提供し必要量が摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声掛けをして歯磨きをしている。夜間は、義歯は預かり、洗浄剤につけ清潔を保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて、排泄パターンをモニタリングし、その人にあったパットの検討やトイレへの声掛けの時間を検討している。介護度が重い方もトイレで排泄できている。	プライバシーに配慮されてトイレ誘導をされていました。日中はおむつを使わない工夫がされていました。夜間は、ゆっくりお休みされていた方が良いとのことでおむつが必要な方は使用されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の味噌汁にサツマイモを使用し、食物繊維の多い食品を食事に取り入れている。牛乳や飲むヨーグルトを準備し、便秘の方には飲んでもらっている。1日の水分が少ない方には多めに水分をとってもらい、散歩や体操など身体を動かす機会も作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたい時に入れるように、希望にそって入浴ができるようにしている。夜間入浴を毎日行っており、夜に入りたい方は入っていただいている。ウッドデッキには足湯があり、楽しんでもらっている。	入浴は個浴で、温泉が出ており、いつでも入れるように対応されています。夜間入浴も行われているとのことでした。安全面に関してもよく整備されていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休息したり、昼寝をするなどゆっくり過ごしてもらっている。夜は、寝具や室温などを調節し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、誰でも見ることができるようにしている。新しい薬が処方された時などは、看護職から申し送りがされ状態の観察を行っている。便秘や下痢の申し送りがしっかりなされ、状態に合わせて下剤の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーの日付替え、台拭き、調理の手伝い、洗濯干しや洗濯たたみ、掃除など、できることを無理なく行っていただいている。また、散歩や買い物、夜のお風呂の後のノンアルコールビールなど、楽しみを持っていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日にその人が行きたい場所や、昔、なじみだったレストランに出かけたりしている。また、鶴屋デパートでの買い物や回転ずし、熊本城見学、植木温泉などに出かけている。月に1回はユニット毎に外出行事を行っている。	日常的にはゴミ捨てに一緒に行ったり、献立の買い物に一緒に行ったりと、日常の生活を自然にできるよう工夫されていました。誕生日のほか月に1回は普段行けない場所やその人の希望に応じて外出支援がされています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こずかいをホームで預かり、買い物の時に自由に使えるようにしている。お金を手元に持っていた方が落ち着かれる方には、家族の理解のもと、少額を本人が持たれてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を取り次いで話していただいたり、手紙を郵送したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の飾りや花などを飾り、季節を感じられる環境づくりを行っている。テレビは見たい方がいる時はつけているが、誰も見ない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。	地熱システムの導入で快適な室温・湿度になるようにされていました。日常はソファーやリビングにおられることが多く、我が家にいるように自由に生活されています。壁には、必要以上の貼り紙等はなく、我が家のリビングにいるような感覚になるように工夫されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスや仏壇などを持って来られたり、家族の写真や花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて過ごせるようにしている。	居室は清潔に保たれており、なじみの写真や大切な仏壇や飾り物でその人が好きなものをその人の工夫で過ごせるように配慮されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人　孔子会		
事業所名	グループホームまゆの里　綾ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人　総合健康推進財団
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38
訪問調査日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者お一人おひとりの希望や願いを一つでも多く叶えられるよう、まゆの里をわが家として感じ、ありのまま、自分のままに暮らしていただけるよう、できることやわかることを活かし、職員も一緒になって助け合い、喜びあえる暮らしの実現を目指しています。様々なミーティングや職員の委員会活動を通して、職員一人ひとりが知恵や工夫、気づきを出し合い、情報を共有して質の高いケアに繋がるよう努力しています。ご家族とも、密に情報交換や連絡をおこなっており、いつでも気軽にホームに来ていただき、面会やご家族との外出も多くできています。時には、ご家族がボランティアとしてホームの行事を手伝ってくださる事もあります。地域や家族、友達、なじみの場所との繋がりを保ち、日々のあたりまえの暮らしを大切に、尊重されていると実感していただけるようなケアを実現していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と目標は職員のネームホルダーに入れ、いつでも確認できるようにしている。朝礼時には理念と目標を1週間ごとに毎日、唱和してから仕事に入っている。日々のケアで悩んだり、行き詰った時には理念と目標に立ち返るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美化作業や夏祭り、敬老会などに参加している。また、併設の小規模多機能ホームと共同で「ふれあい会」を開催し、地域の人や子供会との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で行っている認知症カフェに職員が運営スタッフとして携わり、認知症の人や家族、地域の人の相談窓口になっている。また、カフェを通して認知症の人への地域の人の理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事、ホームでの日頃の様子をスライドを用いて報告。職員の研修状況やひやり・はっと、事故報告なども報告し意見や感想を頂いている。また、地域内の行事や情報についても情報交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当課に毎回、出席していただき、運営状況や内容について報告するとともに、意見やアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという方針のもと、一切、行っていない。職員は、法人内の研修会で身体拘束をしないケア、認知症の理解について学んでいる。玄関も日中は施錠せず、入居者の思いを尊重し、自由に出入りできるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会で高齢者虐待防止法について学んでいる。ユニット毎に週2～3回、朝からプチミーティングを行い、日頃の対応やケアで悩んでいる事などを話し合い、職員間で情報共有しあうことで職員のストレスの軽減を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の入居者が成年後見制度を利用中である。実際の利用の状況をみながら制度について学んでいる。今後、勉強会を行い、成年後見制度や日常生活自立支援事業について知識と理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書や重要事項説明について説明をし、不明点がないか確認の上で契約を行っている。加算の発生や介護度が変更になり、料金が変わるときは、その都度、ご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議では、入居者、ご家族からも意見を頂いている。また、普段の面会時にも、ホームでの様子などについて報告し、意見や要望を話して頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回まゆの里ミーティング、ユニットミーティング、日頃のプチミーティングを行っており、管理者が参加することで、職員の意見や提案を聞き、運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加など、やりがいをもち向上心を高められる機会をつくっている。また、子育てや介護中など各自の生活状況にあわせて、勤務希望や勤務変更など柔軟に対応している。有休休暇もできるだけ、取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内で研修会が行われている。法人内研究発表会があり、研究発表を通して新たに学ぶことができている。また、外部研修にも積極的に参加している。資格取得を目指す職員には、講習に合わせた勤務体制としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な、外部研修に参加することで、他施設の同業者との交流が図れている。また、ホームへの研修や見学も随時、受け入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだ上で、しっかりご本人の言葉や訴えを傾聴している。不安が強い時は1対1で時間をかけて傾聴し、安心して頂けるようにしている。また、できるだけ早く、好きな事やできる事を見つけ生活の中に取り入れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族との面談を行い、困っていることや不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにている。また、入居後もいつでも気軽に相談してもらえるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用が適切なのかを考えて対応している。必要に応じて、在宅のケアマネージャー等とも連携を図りながら、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「あなたと共に生き、共に暮らしを紡いでいきます」という理念が実現できるよう、一緒に暮らしを営み、お互いに助け合って生活している。できる事はして頂き、料理や野菜作りなど職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし、変化があればすぐに電話連絡している。ホームへの行事に参加して頂いたり、ボランティアとして参加して頂く事もある。病院受診は、できるだけ家族に付き添ってもらい、本人との関係が途絶えないようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や床屋で散髪してもらったり、老人会の集まりに参加したり、家族や知人の葬儀に参加している。なじみの店やレストランにも家族や職員が付添い出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、レクレーションや家事を一緒に行い、助け合ったり、思いやりを持った言動がみられている。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら職員がどこに座るか検討している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、近況を尋ねたり、相談にのったり、状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。また、退居先に面会に行ったり、ホームでの様子を退居先の職員に伝え、できるだけ今までの暮らしが継続できるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活や会話の中から思いや希望を聞き取り、プチミーティング等で検討している。一人ひとりのケアプランをファイル化し定期的に職員が確認し、本人の意向や希望に沿った生活が送れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や聞き取りから生活歴や今までの暮らしを確認したり、本人や家族からも話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が主になって24時間シートを作成し、一人ひとりにあった1日が過ごせるようにしている。また、一人ひとりの「できる」「わかる」に着目し、できない事も「○○したらできる」というICFの視点で捉えるようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プチミーティングやミーティングで話し合った意見も活用しながら、本人、家族の意向をふまえた介護計画を作成している。また、担当職員が計画作成担当者と一緒にモニタリングをすることで、サービス内容の見直しを検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応などを細やかに記録している。特に、全職員で共有した方がよいような出来事は、申し送り記録とし、各職員が記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、本人や家族のニーズには応えられるようにしている。受診の対応や個人的な外出への付き添い、また急な夜間帯の家族との外出にも対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの美容室やスーパーに出かけたり、入居者の仲のいい親戚や友達を把握し、交流が図れるようにしている。また、図書館に定期的に出かけ、好きな本を借りてきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。受診はできるだけ、家族に付き添ってもらい、必要時は職員が同行している。その時の症状に応じ、専門医の受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化がある時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常があれば、家族に連絡・相談の上、かかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子などを情報提供している。入院中は、職員が面会に行ったり、家族や病院の看護師や相談員と連絡をとり情報交換や今後についての相談を行っている。また、なじみの入居者と一緒にお見舞いにい行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。また、身寄りがない方については、後見人やかかりつけ医等と話し合い、事前指定書を作成した。今後、重度化や終末期になった場合は、本人・家族と話し合い連携していきながら支援していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会で心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。また、ホーム内の吸引器の場所やセットの方法について、看護職から指導を受けている。急変時はマニュアルに沿って、対応するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署の立ち合いのもと昼・夜間想定の避難訓練を実施している。法人内の備蓄のほか、ホーム内にも備蓄している。地震や洪水の訓練は実施していないので、今後、地域との連携を図りながら実施していきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室はカギがかけられるようになっている。人として、人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の一つひとつ、例えば散歩に行くかどうか、お茶にするかコーヒーにするかなど、私たちが判断するのではなく入居者が自分で決定できるような声掛けをしている。また、したくない事やいやな事も伝えられるような雰囲気や声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、ミーティングなどで、どうすればその人らしく生活できるのか意見を出し合っている。今日、何をして過ごすか、入居者の希望を聞き、できるだけ叶えられるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらっている。女性は、自分の化粧品をもってきて頂き日頃からお化粧をしている。。外出や行事があるときは、外出着を着てもらい、スカーフやアクセサリー、帽子などを身につけて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや味見、あえ物づくり、盛り付けなど、一人ひとりのできる事、得意なことを見極めて一緒に手伝ってもらっている。男性職員が調理担当の時などは、率先して手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病気や体重、状態に応じて、量や食形を変えて提供している。以前から白米が苦手な方には、パンを提供している。水分量が足りない方は、好みの飲み物を提供し必要量が摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声掛けをして歯磨きをしている。夜間は、義歯は預かり、洗浄剤につけ清潔を保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて、排泄パターンをモニタリングし、その人にあったパットの検討やトイレへの声掛けの時間を検討している。介護度が重い方もトイレで排泄できている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の味噌汁にサツマイモを使用し、食物繊維の多い食品を食事に取り入れている。牛乳や飲むヨーグルトを準備し、便秘の方には飲んでもらっている。1日の水分が少ない方には多めに水分をとってもらい、散歩や体操など身体を動かす機会も作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたい時に入れるように、希望にそって入浴ができるようにしている。夜間入浴を毎日行っており、夜に入りたい方は入っていただいている。ウッドデッキには足湯があり、楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休息したり、昼寝をするなどゆっくり過ごしてもらっている。夜は、寝具や室温などを調節し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、誰でも見ることができるようにしている。新しい薬が処方された時などは、看護職から申し送りがされ状態の観察を行っている。便秘や下痢の申し送りがしっかりなされ、状態に合わせて下剤の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーの日付替え、台拭き、調理の手伝い、洗濯干しや洗濯たたみ、掃除など、できることを無理なく行っていただいている。また、散歩や買い物、夜のお風呂の後のノンアルコールビールなど、楽しみを持っていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日にその人が行きたい場所や、昔、なじみだったレストランに出かけたりしている。また、鶴屋デパートでの買い物や回転ずし、熊本城見学、植木温泉などに出かけている。月に1回はユニット毎に外出行事を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こずかいをホームで預かり、買い物の時に自由に使えるようにしている。お金を手元に持っていた方が落ち着かれる方には、家族の理解のもと、少額を本人が持たれてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を取り次いで話していただいたり、手紙を郵送したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の飾りや花などを飾り、季節を感じられる環境づくりを行っている。テレビは見たい方がいる時はつけているが、誰も見ない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスや仏壇などを持って来られたり、家族の写真や花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		